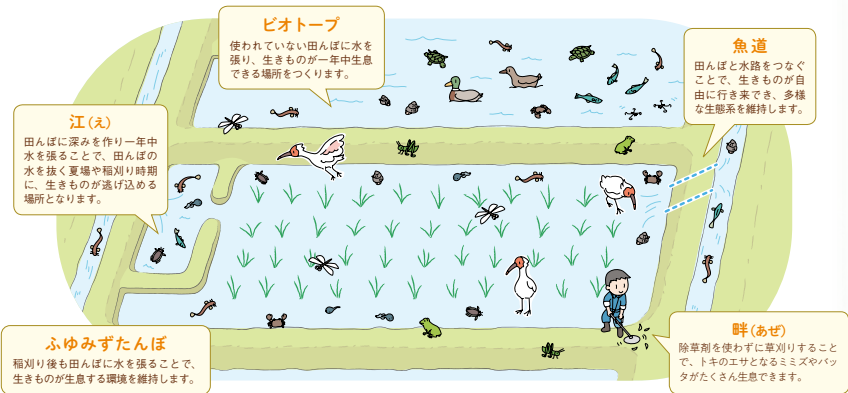


さまざまな生きものが 田んぼで暮らせるお米づくり



10月、田んぼアートの前で寄付金贈呈式を開催。組合員から生産者への応援メッセージもお渡ししました

2024年度寄付額 345万558円  
累計寄付額 (15年間) 3,972万2,653円

**食べることで生産者を応援！**

佐渡トキ応援お米プロジェクトでは、「CO-OP産直新潟佐渡コシヒカリ」やその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、生きものを育てるための環境づくり・トキと共生するお米づくりに役立てています。佐渡は島特有の気候で夏場は比較的涼しく、稲穂がじつりと実るため、独特の甘みとコク、粘りのあるおいしいお米が育ちます。このおいしいお米を食べることが、生産者の応援につながります。

- 対象商品
- 産直 新潟佐渡コシヒカリ ※5kgと2kgがあり、それぞれ無洗米もあります  
1kgにつき1円
  - 産直 新潟佐渡コシヒカリで作ったごはん 3パックにつき1円
  - 産直 新潟佐渡コシヒカリで作った焼おにぎり 1点につき1円



佐渡トキ応援  
お米プロジェクト

お米を食べて生産者を応援

もう一度、日本の空にトキを

生きものと共生する米づくり



かつて、日本のあちこちで見られたトキ。「朱鷺色」と呼ばれるピンク色の翼を広げると140cmにもなる大型の鳥です。しかしその美しい羽根が狙われて乱獲されたり、農業の使用で田んぼからエサとなるドジョウやカエルが減ったりして、日本の野生のトキは一度絶滅してしまいました。

トキの最後の生息地となった新潟県・佐渡島では、1999年に中国から贈られたトキの繁殖に成功。2008年には野生復帰にも成功し、今では500羽を超えるトキが佐渡の空を舞っています。

トキが野生で暮らしていくためには、エサやねぐらが必要ですが、トキの野生復帰のため田んぼをエサ場にしようと、佐渡のお米生産者の皆さんは「生きものを育てる農業」を始めました。農業や化学肥料を減らし、生態系を保って、田んぼやその周辺にさまざまな生きものが暮らせるお米づくりです。しかしそれは手作業で雑草を取るなど手間がかかり、収穫量も減る上、費用もかかります。こうした取り組みを進める生産者の皆さんを応援するため、コープデリが2010年に始めたのが「佐渡トキ応援お米プロジェクト」です。

産直新潟佐渡コシヒカリ商品の売り上げの一部を、生きものを育てるための環境づくりに役立てる「佐渡トキ応援お米プロジェクト」。トキとの共生を目指し、さまざまな活動に取り組んでいます。

生産者の皆さんと交流しています

プロジェクトでは、地元生協のコープデリにいがたを中心に組合員・職員が毎年佐渡を訪問。JA佐渡の生産者や地元の皆さんと交流し、見て・聞いて・体験することで、より多くの方にプロジェクトへの理解が広がることを目指しています。



田んぼに異なる品種の苗を植えて絵を描く「田んぼアート」の田植えを行いました



田んぼの周辺を耕し、トキのエサ場となるビオトープを作りました



田んぼやビオトープにすむ生きものを調べ、生きもの多様性やトキと暮らす環境づくりを学びました



今年の田んぼアートのテーマは「共生」。順調に稲穂が実り、きれいな絵がくっきりと浮かび上がりました



鎌を初めて手に取る組合員の皆さんも、生産者さんからコツを教わってもらい、サクサクと刈っていました

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標12:

つくる責任 つかう責任

につながっています。

12 つくる責任 つかう責任

